

蘇り伝説と奇跡の湯、 時代を超え今なお健在

万人を癒し、生きる力をくれる
起死回生の物語、説経節「小栗判官」

風姿和伝
FUSHIWADEN
伝統芸能に息づく
和歌山

「小栗判官」蘇生の地
熊野本宮、湯の峯温泉

開湯から約1900年、日本最古の湯治場といわれる湯の峯温泉郷に、蘇り伝説の舞台となった天然の岩風呂「つば湯」(世界遺産)がある。その伝説を物語るのが説経節「小栗判官」。全国に熱狂的な熊野参詣ブームを引き起こし、500年近く経た今も物語の人氣は色あせず語り継がれている。

主人公は京の貴族出身、常陸国の小栗判官。照手姫と恋に落ちて強引に婿入りし、姫の父に毒殺される。しかし、閻魔大王の裁きで醜い「餓鬼阿弥」となる。湯の峯の薬湯につかれば元の姿に戻ると、時宗総本山、清浄光院(遊行寺)の上人は餓鬼阿弥を土車に乗せ「二引き引けば千僧供養、二引き引けば万僧供養」と送り出す。照手の愛、道中の人々の助け、神仏のご加護に導かれて湯治し、身も心も蘇る。

生きる力を取り戻してゆく壮大なドラマは、いつの時代も演出家の創造力をかき立て、芸能の世界で多彩に表

現されてきた。浄瑠璃や歌舞伎、近代ではスーパーステージにもなり、今年も宝塚歌劇団のミュージカル公演や、12月には映画『蘇りの血』(豊田利晃監督)も封切られるなど話題は尽きない。

もとは一遍上人を開祖とする時宗の僧により、庶民に神仏の教えを説くために語られた説経節。日本の語り芸のルーツともいわれ、有名な演目「五説経」の中に「小栗判官」も含まれる。

「スケールが大きいだけじゃない。小栗を追体験できる湯が本場に湯の峯にある。娯楽性、道徳性、真実味があり、時代を問わず愛される要素が満載です」と語るのは、湯峯の民宿「小栗屋」主人、小栗伝説研究家の安井理夫さん(74)。この物語がただの作り話とは思えない出来事も多く見てきた。

湯の峯は、浄不浄、信不信、性別、貧富、身分を問わず、万人を受け入れてきた地。事実、ハンセン氏病患者の湯治場だった長い歴史もあるなど、この地の懐深い風土は色濃い。

「この湯のおかげで」と、喜ぶ言葉を聞くと、にうれしくなるのだと、安井さんに笑顔がこぼれる。



民宿「小栗屋」主人、安井理夫さん。父の代より半世紀以上、小栗伝説の研究と伝承に貢献。全国の小栗伝説ゆかりの地と人を結ぶ「全国をぐり連合フォーラム」世話人。語り部としてふるさと名人「紀の人賞」受賞。●小栗屋(Tel. 0735-42-0103)

つば湯は自然に穿たれた小さな岩風呂。底からしみ出すように湧く湯は「くすり湯」とも呼ばれ、1日7色にも色合いが変わるといふ。その岩穴は体を湯とともに包み込む。哲学者の梅原猛氏は「その形はまるで子宮の形。新しい命の誕生する形であり、ここはその土地だ」と語ったという。



2000年10月、国立劇場での第220回歌舞伎公演「小栗判官譚」。写真は舞台の大詰「熊野虹ヶ嶽山雲の場」の一場面。小栗判官を中村時蔵、照手姫を片岡愛之助が熱演。土車の餓鬼阿弥が亡夫の小栗と知らず、照手姫は夫の供養のために、熊野、湯の峯温泉へと導く。

湯の峯温泉「つば湯」

住所 和歌山県田辺市本宮町湯峯
電話 湯の峯温泉公衆浴場 0735-42-0074
営業時間 午前6時～午後9時30分(定休日なし)
料金 つば湯大人750円、12歳未満450円
(30分交代制。公衆浴場料金含む)
泉質 含硫黄ナトリウム炭酸水素塩泉
効能 リウマチ疾患、神経痛、皮膚病、婦人病、糖尿病、切り傷など